

★*...*****

メールマガジンで語り伝える 「今を生きるスターリイマンの物語」
～感謝の風船ラブレター～ 2014.02.19 vol.17

★*...*****

☆ごあいさつ☆

皆様、お元気でしょうか？
ここ2週に渡って大雪となりましたね。

特に、先週の金曜日と土曜日は、
各地で記録的な積雪量となり、
今も大雪に埋もれ孤立状態になっている地域が
数多くあります。

未だ復旧のめどがたっていない交通機関。
高速道路及び道路の不通、停電、家屋の崩壊。

農作物や様々な物流にも影響が出ており、
自然の猛威とは本当に怖いものだと感じております。

被害にあわれている皆様がどうかご無事に、
一日も早く、正常の生活に戻れることを
心から祈っております。

さて、本日から新しく始まる
「今を生きるスターリイマン物語」の第6話では、
日本企業の経営品質向上に貢献なさっている

NPO法人 茨城県経営品質協議会
NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム理事の
鬼澤慎人氏についてお届けいたします。

それでは、まずは第1章の鬼澤慎人氏との出会いを
最後までお楽しみ頂けたら、嬉しいです。

☆第6話 日本企業の経営品質向上に貢献する☆

NPO法人 茨城県経営品質協議会

NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム

理事 鬼澤 慎人 氏

第1章 ～鬼澤慎人氏との出会い～

鬼澤慎人氏との出会いは、2008年12月19日。

「ドリームプランプレゼンテーション2008」
(通称:ドリプラ)の大会に、祐希がプレゼンターとして
出場させていただいたことがきっかけでした。

「ドリプラ」とは、自分自身の夢を
10分間のプレゼンテーションで伝え、
感動と共感によって、夢の応援者を集めるという趣旨の大会で、
本選前日の予選会で審査員を行っていたお一人が、
鬼澤さんでした。

無事予選を通過した祐希は、本選の舞台で発表。
鬼澤さんからのメンターカード
(発表者に贈られるメッセージカード)には、
プレゼンテーションへの有り難いご感想と共に、
「ずっと応援します!」と書いてくださっていました。

鬼澤さんが茨城県の水戸のご出身であることを知り、
同じ茨城県出身の私は、とても親近感を感じて、
すぐにお礼のメールをお送りさせて頂きました。

その後、2年後の2010年5月に大久保寛司さんと出会って、
大久保さんと鬼澤さんが懇意な間柄であることを知りびっくり!

鬼澤さんが創設された「NPO法人茨城県経営品質協議会」が
2010年に設立10周年を迎え、その記念講演会に
大久保さんと高野登さんがご講演される中で、
祐希がスターリマンの作品の朗読をさせて頂きました。
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/entry-10566139553.html>

それから鬼澤さんとのご縁がぐっと深まったのです。

まず、講演会の後には、知的障がい者の方々の
ワールドカップ出場を支援するための募金活動を応援して頂いたり、
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/entry-10569842298.html>

2011年に水戸で開催された東日本大震災の復興チャリティイベントで
祐希に司会の大役を任せて頂き、
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/entry-10956831060.html>

その年から鬼澤さんを中心に始められた
「いばらきドリームプランプレゼンテーション」でも
3年連続コメンテーターを務めさせて頂きました。
【2011】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20111120.html>
【2012】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20120826.html>
【2013】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20131110.html>

また、「スターリマン紙芝居プロジェクト」の活動で
2011年のクリスマスに宮城県を訪れた際は、
スターリマンの缶バッジを200個も作って頂き、
子ども達へに素敵なクリスマスプレゼントをお届けすることが出来ました。
http://www.dream-hasegawa.com/0311_kamishibai/activity_report.html

2012年の「一般社団法人スターリマンからの贈りもの」設立時には、
何度も相談に乗って頂き、祐希はどれだけ心励まされたことか…
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20121223.html>

そして、2012年、2013年と鬼澤さんの運転で、
被災地を巡る東北訪問のお仲間に入れて頂いております。
【2012年】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20120709.html>
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20120710.html>
<http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20120711.html>
【2013年】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/day-20130705.html>

その他にも、色々な場面で私たちのことを応援して頂き、
ドリプラのメンターカードに書いてくださった
「ずっと応援します！」の嘘偽りない一言に、
いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。

周囲の方々に兄貴のように慕われ、
まるで水戸黄門さまのように、世のため、人のため、
日本各地を飛び回っている鬼澤さん。

2009年8月8日にブログを始められてから
どんなに時間がない時でもその日にあった出来事や気づきを、
欠かさずブログに書くことをずっと続けていらっやいます。

【鬼っ子日記】 <http://ameblo.jp/onikko-nikki/>

このブログをお読みいただくと、
鬼澤さんの素晴らしさやお人柄を
少しは感じていただけるかもしれません。

これからの日本の未来を輝かせてくださる
大事なスターリィマンのお一人であると
私たちは心から思っています。

☆第6話 日本企業の経営品質向上に貢献する☆
NPO法人 茨城県経営品質協議会
NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム
理事 鬼澤 慎人 氏

第2章は、2月28日(金)配信予定です!

皆様、鬼澤慎人氏との出会いは、
いかがでしたでしょうか?

人との出会いは、いつも驚くことばかりです。
ひとつのご縁の結び目の強さとご縁の深さを…

一期一会、つなげるのではなく
自然体でつながっていけることが幸せだなと。

そんな素敵な出会いを頂いている私たちは、
感謝でいっぱい毎日です。

さて、今回は、第2章 鬼澤氏の原風景です。
配信は、2月28日(金)となります。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

明日20日は、郡山に出かけます。

3月9日に開催する「いつも君のそばにいるよ」の朗読音楽コンサートのPRのための新聞&TV取材やお打ち合わせに行つて参ります。

<http://www.dream-hasegawa.com/about/event.html>

一昨日まで、今日と明日はまた雪の予報でしたが、お天気が変わつて、ほつとしているところです。

このコンサートを支えてくださっている郡山の実行委員会の皆様の温かい応援のお気持ちのおかげと心から感謝でいっぱいです。

明後日の21日には、ピアニストの小島さんとヴァイオリニストのはなしまさんとのリハーサル。

今回の公演用に、また新たな世界観を創り上げていただく予定になっています。とても楽しみにしています。

3月9日、サンキューの日。
このメールマガジンをお読み頂いている皆様とも是非、大切な方へのありがとうの気持ちを分かち合えましたら幸いです。

それでは、皆様お身体にお気をつけてお過ごしください。

はせがわ芳見

☆はせがわ芳見ブログ☆

<http://starryman-smile.cocolog-nifty.com/>

★*...*****★

メールマガジンで語り伝える 「今を生きるスターリィマンの物語」
～感謝の風船ラブレター～ 2014.02.28 vol.18

★*...*****★

☆ごあいさつ☆

皆様、お元気ですか？

午前中は、主人と娘が卒園した
「普門院幼稚園」さんで
紙芝居ライブを行ってまいりました。

元気いっぱいな子ども達の笑顔。
またがんばる力が湧いてきました！

さて、今日で2月も終わりますね。
今月は2週続きの大雪で、日本列島は大混乱。

いまだ大変な毎日を余儀なくされている方も多く、
一日も早く、正常な日常に戻れますように
心から願っております。

また今月は、ソチ五輪で日本中が熱くなりましたね。
3月7日に開幕するパラリンピックでも、
素晴らしい感動が数多く生まれることでしょう。

がんばれ!ニッポン!!

「今を生きるスターリィマンの物語」の第6話
第2章は、鬼澤慎人氏の家族の原風景をお届けいたします。

それでは、皆様の思い出と出会う
素敵な時間になりますように、
最後までお楽しみ頂けましたら嬉しいです。

☆第6話 日本企業の経営品質向上に貢献する☆

NPO法人 茨城県経営品質協議会

NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム

理事 鬼澤 慎人 氏

第2章 ～鬼澤慎人氏の家族の原風景～

いつも大らかで、謙虚で、
後輩からも先輩からも慕われて、
包み込むような温かさを持つ
鬼澤慎人氏の原風景を知りたいと願い、
昨年12月28日の年末に
水戸でインタビューをさせて頂きました。

Q1.鬼澤さんのご家族のことを教えてください。

私は、昭和7年生まれの父・実と、
昭和12年生まれの母・久子の長男として、
昭和37年4月5日、茨城県水戸市で生まれました。

3歳下の弟と5歳下の妹の三人兄妹です。

実は、私が生まれるちょうど1年前の
4月5日に父方の祖母が亡くなりました。
なので、祖母の一周忌の命日に生まれた私のことを、
親族は、祖母の生まれ変わりだと思ったそうです。

Q2.鬼澤さんのお父様のことを教えてください。

父は現在、僕たち家族と一緒に暮らしています。

鬼澤家は、一代目は父のお祖父さんである
私の曾祖父が八百屋を始めて、
二代目の私の勇之介お祖父さんが、
鬼澤青果市場を作りました。

祖父は豪快な人で、商才がある商売人だったと、
いろんな人が祖父のことを教えてくれました。

店の裏に自宅があって、二階は料亭みたいな大広間になって、
そこで昼間から芸者を呼んで、宴会をしていたこともあるそうです。

そんな祖父の姿を見て育った父親だったので、
一事で言うと遊び人気質。
良い意味のお坊ちゃまだったんじゃないですか。
若い頃からスキーやダイビングが大好きで、
モテたらしいですよ(笑)。

祖父は、僕が大学3年生の時に亡くなったんですが、
葬儀をした自宅を弔問客が300m近くも並びました。

祖父は、僕が子供の頃にすでに隠居していたので、
祖父の事はよく解らなかったのですが、
亡くなった時に周りの人たちが、
「あなたのお祖父さんはすごい人だった」と褒めるんで、
父親さえもびっくりしていました。

父と母はお見合い結婚でした。
母は水戸の隣の岩瀬町から嫁ぎました。
母の実家は羽黒の大きな石材屋でした。

三代目である父が、市場を継いで、
母は果実店を継ぎました。

昭和47年に「公設卸市場法」という法律ができて、
青果市場、魚市場など、これまで市内に点々とあった市場が、
自治体ごとにまとめられることになったのです。

水戸のはずれに「水戸市公設卸売市場」ができて、
その中に、鬼澤青果市場ともうひとつの市場が合併して、
株式会社茨城県大同青果が誕生しました。

父の口癖は、「地域の経営者は地域を元気に、
街を元気にしていかなくちゃダメだ。
街が元気になってから、会社が良くなるんだ」でした。

お祭りとか、まちづくりが大好きな人です。

そんな父に一回も「勉強しろ」と
言われたことがなかったですね。

「とにかく友達を大事にしろ」
そればかり言われました。

「友達が財産だ」
そのことは、ずっと僕は守っているんです。

尊敬しているところは、「人の悪口を言わない」
そして「後輩の面倒見が良いこと」です。

一鬼澤さんはお父さん似ですか？

容貌とかは似ているようですね。
ガキ大将というか親分肌のところも。

僕がまちづくりの活動をいろいろとやっていること知っている
地元の人たちからは、親父さんそっくりだと言われますね。
唯一父と違うのは、夜の街を飲み歩かないところでしょうか(笑)

Q3. 鬼澤さんのお母様のことを教えてください。

母は10年前の2005年に亡くなりましたが、
「私はレジの音が生きがい、レジの音が聞きたい」と、
亡くなる直前まで言っていました。
根っから商売人の母親でした。

母親は働き物でしたね。
元旦以外はお店を閉めないのですから。
昔は住み込みの店員さんも2~3人いて、
水戸で一番大きな果物屋でした。

母の昔の写真を見ると、
近所で評判の美人だったようです。

また私の結婚式の時、お仲人さんが、
毎日のように飲み歩く父に、
一切何も文句を言わなかったお母さんは
素晴らしい人だと言っていました。
みんな母親のことばかり誉めていましたね。

マザコンだと言われるかもしれませんが、
そんな明るくて皆に好かれていて働き者の母親が
私はとても大好きでした。

Q4.どんな子供時代を過ごされましたか？

長男として、可愛いがられて育ってますから、
かなり我がままだったと思います(笑)

なぜか勉強をしなくてもそれなりに出来て、
中学校では、学年で400名ぐらいのうち、
いつも20番ぐらいの成績だったんですが、
高校入試で失敗しました。
水戸一高という県内トップ高に落ちたんです。

また、中学では、野球部に入っていたのですが、
部員が100名近くいて、ずっと補欠で、
年に一回ぐらいしか、試合に出れませんでした。

僕にとっては、高校入試失敗と野球部の補欠は、
挫折というか、悔しさを味わった大きな経験でした。
特に高校受験の失敗は、けっこう大きくて…
いつも明るい母親が、ひとり台所で泣いている姿を見て、
とてもショックでしたね。

結局、高校は私立の男子高校へ入ったんですが、
母に苦勞をかけちゃいけないなあと思い勉強しました。

高校2年の時までは、父の母校でもある
早稲田大学の推薦を狙っていたんですが、
高3の時に、早稲田の推薦が無くなってしまいました。
そこで先生の勧めで上智大学の推薦入試を受けて、

合格しました。

その時の小論文のテーマは、
「伝統と革新は両立するか」
今でも忘れない、思い出深いテーマです。

実は、上智大学のことをあまり知らずに入ったんですが、
でも入学して、上智に行って良かったと思いました。
こじんまりとしていて、四谷の環境も良かったですし。

大学の校内にある学生寮に住んでいたんですが、
チャイムなってから、授業に行けますし、便利でしたね。
毎晩のように寮生たちと飲んで語り合った、
良い思い出がたくさんあります。

Q5.夢を持ったのはいつ頃でしたか?その夢はどんな夢でしたか?

大学に入った当初から、父からは
いずれ帰って家業を継ぐまで、
好きなことをやって良いと言われていましたので、
大学4年の時、卒業してからどうしようかと迷っていました。

昭和60年は、金融機関や商社が大量採用を始めた年で、
完全な売り手市場でした。

その頃は、大学4年の夏からが就職活動で、
夏休み明けくらいに内定をもらうんです。
大学の先輩たちがわざわざ学生寮に来て、
会社説明をしてくれました。

ある日、第一勧業銀行の先輩が来て、話を聞いた時に、
わぁこの人何?って思っ
僕より10歳上の方でしたが、すごい衝撃だったんですよ。

その方は上智から、第一勧業銀行に入って、
その後、アメリカのスタンフォード大学で2年間、
MBAを取得して、帰って来て、僕らの所の来たんです。
話がかっこいいんですよ。

面白そうだな、銀行って、とその時思ってしまったんです。

説明会が終わった後に、その先輩と飲みに誘われて、最後の最後まで付き合っていた僕ともう一人が、「お前ら、第一勧業に來い」って言われて。

僕は家を継ぐので、何かしたいとか夢はなかったんで、その先輩に憧れて、第一勧業銀行に入ることに決めたんです。

大学卒業前の3月に、銀行から配属先の連絡が来たので、すぐに先輩の職場に電話をしたら、驚いたことに銀行を辞めていて…

自宅に電話をしたら、転職して、今はニューヨークに行ってるって聞いてええ〜って思いました(苦笑)そんな状態で、僕は第一勧業銀行に入るわけですよ。

いや〜、銀行の生活は大変でしたね。毎日毎日、何でこんなに遅くまで仕事するんだろうって思いました。でも、貴重な経験したと思っています。昭和60年、世の中、バブル入り口で、日経株価が1万円を超えて、NTTの株が上場するとかの時でしたから。

勤め始めてから3年目の夏前ぐらいに、アパートに電話がかかって来たんです。僕を第一勧業銀行へ引っ張ったあの先輩の糸瀬さんから。

今、東京で働いているということで、会うことになって、六本木のバーで糸瀬さんと同僚の人と会いました。

糸瀬さんは、「ソロモン・ブラザーズ」というインベストメントバンクで働いていて、国際金融市場のこと、日本の銀行との違いなどの話をしてくれました。

そして最後に、「お前、銀行辞めて、ソロモンに來い」と。最初は「ふざけないでください。もう騙されません」と断ったのですが、やっぱり最後は糸瀬さんに憧れているので、信じてみよう(笑)。

僕は1987年12月にソロモン・ブラザーズに入社、同期に、藤原直哉さんという方がいたのです。

藤原さんは、住友電工という会社から転職してきて、その年に入って来た新卒と途中入社の方は20数名でした。そのメンバーで、夏からニューヨークの本社へ約半年間の研修に行きました。

Q6. 鬼澤さんの人生を大きく変えた出来事は何ですか？

僕の人生を変えた人は、この糸瀬さんと藤原さん、そしてもうひとり、ベティン博士です。

藤原さんとの出会いも強烈でしたね。ともかく知識量だけでなく、ものの見方、考え方が違う。こんなにも歴史観と世界観が深く大きな人がいるのかと驚きました。

ソロモンは世界で最初に、金融工学というのをを使って、デリバティブズ、金融派生商品を創り出した会社で、当時のウォール街では、「ゴールドマン・サックス」「モルガンスタンレー」と並ぶビッグ3と言われていました。

デリバティブズ、これが後に、サブプライム問題、リーマンショックに来るんです。

ウォール街って結局、勝ったもん勝ちなんですよ。西部劇で、相手が後ろ向きの際に、撃っちゃえということ。武士道とか騎士道とかないですよ。負けた方が悪い。そんな世界です。

ルールや規制は、自分たちで自分たちの有利なように変えていく。

考え方は短期的、会社も商品だから、売ったり買ったりするのは当たり前。

そこで働いている人間も、長くはやるつもりはなくて、手っ取り早く儲けだけ稼いで引退して、何億か貯めて、

カリブ海に行くとか、自分で起業を起こすとか。

自由化はある意味成長、進化には必要ですが、
規制をどんどん撤廃して行くことだから、
ある意味無法地帯になるし、
人間の欲は際限なく広がっていきます。
もっと儲けてやろう、もっと儲けてやろうと。

また法律やルールを守れば、
何をやっても良いわけではないとも思っていました。

世の中やっていい事と悪い事があると、
うちの祖父さんが、よく言っていました。
卑怯なことはしてはいかんって。
それを思い出して、ソロモンをもう辞めようと思い
水戸へ帰ることにしたのです。

Q7.そこから現在の鬼澤さんに至った経緯を教えてください。

1992年、僕が30歳の時、ソロモン・ブラザーズを辞めて、
水戸に戻り、父の会社に入社しました。

ちょうど僕が辞めた半年後に藤原直哉さんも辞めて、
独立したのです。

水戸へ戻って強く感じたことが、
変化に対する危機感のなさ。
時代がどんどん速いスピードで変化しているのに、
まず変化を知ろうとしない。

まだ昭和だと思っているし、いつか昔に戻ると思っている。
変化を知らないので、対応のできていないし、
次の変化を予測して、準備することもできていない。
それで業績が上がらないと嘆いているんです。

しかもそれが親父たちの世代の人たちだけでなく、
自分の同級生や後輩たちもそうなっていることに
僕自身は大きな危機感を感じました。

これじゃまずい。このままでは会社もいずれダメになるし、水戸の街も良くなるらない。どうしたら会社もまちも長続きできるか、もっと真剣に考えて取り組まなければならないと考えていました。

まずは何とか世の中の変化を知ってもらおうと、1997年に藤原さんをお願いして、マクロ経済の勉強会を始めました。それが今も続いている「藤原塾」です。

またその勉強会で藤原さんから、「経営品質」の話聞いて、僕はピーンと来たんです。

それまでは、経営は量の勝負だと思っていたのですが、経営は品質が大事だと。質を上げなければ、結果として量を生み出し続けることができない。

そして経営の品質を上げるためのプログラムがあると聞いて、いてもたってもいられなく、すぐに東京に学びに行きました。

そして1998年の秋に、水戸の経営品質研究会を立ち上げて勉強会を始めました。ちょうどその頃、地方で経営品質協議会を立ち上げるところが出てきて、福井県で立ち上げた、福井キャノンの玉木さんにいきなり電話して、いろいろとアドバイスをいただきました。

そして、玉木さんに「経営品質をやるなら、この人を知らないでダメだよ」と言われて、紹介されたのが、当時まだIBMを辞める前の大久保寛司さんでした。僕が36歳の時で、大久保さんは50歳ぐらいだったと思います。

翌年、経営品質向上プログラムの基になっている米国のMB賞(米国国家経営品質賞)の報告会をワシントンに視察に行きました。そしてその帰りに、シアトルのワシントン大学へ寄ったことで、また僕の人生は大きく変わりました。

経営品質では、リーダーシップが重要であると。ワシントン大学で、そのリーダーシップを教える素晴らしい先生に出会ったのです。それが、ベティン博士。

ベティン博士の授業を受けた時に、
その内容だけでなく、教えるベティン博士自身が
素晴らしいリーダーシップを体現されているのです。
僕の目指す姿が、そこではっきりしたのです。

ベティン博士のように、人に未来を創る
勇気と知恵を与えられるようになりたいと。

本気で経営品質を広めたいと、茨城県経営品質協議会を創設し、
2000年に、父の会社を辞めました。
父からは、お前の好きなようにしていい。
ただ、墓だけは守れと言われました。

まちを元気にしていくには、
3つを何とかしなくてはならない。

一つが、まちにある企業、特に中小企業
二つめが、市民の意識と行動
三つめが、地方自治体

これら3つに対して経営品質、
リーダーシップを中心に活動して、
変化を起していきたいと、
同年に、株式会社ヤマオコーポレーションを設立しました。

茨城県経営品質協議会の設立の基調講演には、
講師として大久保寛司さんに来て頂きました。
10周年の記念講演には、大久保さん、高野さん、
祐希ちゃんにも来てもらって。

10年経ったことを機に代表を辞めて、
自分の活動の範囲をどんどん全国に広げています。

世の中の変化を知る「藤原塾」から始まり、
「経営品質」と「リーダーシップ」

地域のことをもっと知って誇りを持ってもらおうと、
水戸で生まれた世界のゲーム「オセロ」を使った
まちづくりの「オセロプロジェクト」

若い人たちに学校では教わらない、
志や世の中のこと、水戸のことを学んでもらおうと
水戸の藩校「弘道館」の現代版として立ち上げた「あしたの学校」

大人が夢を語り、実現に向けて行動しなければ、
子どもたちも夢を持たない。
大人が夢を語り、互いに支援し合う社会の実現のために
「いばらきドリームプランプレゼンテーション」

学校の先生をもっと応援しようと
「あこがれ先生プロジェクトいばらき」

地方自治は、政治家や行政職員だけでなく、
市民ひとりひとりの意識と行動が変わらなければならないと
「ローカルマニフェスト推進ネットワークいばらき」

そして自分たちでこの国の未来を創っていこうと
「認定NPO法人日本再生プログラム推進フォーラム」

まだまだやりたいこと、やらなくてはならないことがあります。
命の続く限り、走り続けていく覚悟でいます。

Q8.最後に、鬼澤さんにとってのスターリイマンを教えてください。

僕は本当に運の良い人間だと思っています。
特に人との出会いには恵まれています。

出会った人、ひとりひとりが
僕にとってスターリイマンなのですが、
ひとりとなると、やっぱり糸瀬さんですね。

糸瀬さんと出会わなかったら、今の自分はないです。
糸瀬さんに憧れて、追いかけたところから始まったから。

糸瀬さんはもう10数年前に亡くなってしまったのですが、
亡くなる前に久米宏さんがキャスターをしていた
TV番組「ニュースステーション」に出演していました。

ご自身がガンとわかって、病室でじっと寝ていることをせずに

この国の金融問題について話をしていました。
自分の娘が生きていくこの国の未来が心配だと。

最後の最後まで、命を削っても、よりよい未来を創るために
活動していた糸瀬さんの姿を僕は今も忘れません。

糸瀬さんのおかげで、日本再生への覚悟を持つことが出来ました。
僕のスターリイマンです。

☆第6話 日本企業の経営品質向上に貢献する☆
NPO法人 茨城県経営品質協議会
NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム
理事 鬼澤 慎人 氏

第3章は、3月9日(日)配信予定です!

皆様、鬼澤慎人氏の家族の原風景は、
いかがだったでしょうか?

人との出会いこそが、すべての始まり。
たとえ上手く行かないことがあっても、
時が来れば、この出会いのためだったんだと
必ず思える日が来る。

どんなことが起こるか分からない。
だから人生は素敵で、明日がもっと輝いていく。
鬼澤さんのお話から、そのようなことを感じました。

さて、今回は、いよいよ最後。
第3章 鬼澤氏のスターリイマンに宛てた
感謝の風船レターをお届けいたします。

配信は、3月9日(日)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

本日も最後までお読みいただきまして、
誠にありがとうございました。

次回のメールマガジン配信日の3月9日は、
“サン・キューの日”と言うことで、
私の著書「いつも君のそばにいるよ」の
朗読音楽コンサートを福島県郡山市で開催します。

郡山の子ども達に紙芝居をお贈りする活動を
いつも支えてくださっている方々が、
実行委員会を立ち上げてくださいました。

昨年10月から何度もお打合わせを重ね、
コンサートの告知や集客、当日のボランティアまで、
有り難いお力添えに、感謝感謝の毎日です。

ピアニストの小島さやかさんと、
ヴァイオリニストのはなしまなおみさんと共に
この後、午後からリハーサル。

郡山バージョンとして、
小島さんに新たな楽曲を創っていただいているので、
とっても楽しみです。

そして、5月11日の「母の日」は、沖縄での開催が決定しました！
こちらは、沖縄のピアニストの方と一緒に創り上げる
また新しいバージョンになっています。こちらもお楽しみに☆

さて、明日から始まる3月は、
桃の節句にホワイトデー、卒業、転勤、お引越し、等々
様々な行事が目白押しですね。

皆様の旅立ちが、次の新たな出会い、
輝く未来へとつながっていきますように…

はせがわ芳見

★*...*****

メールマガジンで語り伝える 「今を生きるスターリマンの物語」
～感謝の風船ラブレター～ 2014.03.09 vol.19

★*...*****

☆ごあいさつ☆

皆様、おはようございます。
私は、昨日から郡山に來ています。

昨日の夕方は風花が舞っていて、
とても幻想的でした。
暖かい春が待ち遠しいですね。

さて、いよいよ本日3月9日は、
「サン・キューの日」と言うことで、
私の著書の「いつも君のそばにいるよ」の
朗読音楽コンサートin郡山の本番です。

<http://www.dream-hasegawa.com/event/2014.3.9event.pdf>

昼と夜の部の2回公演。
各回、80名のお客様にご来場頂けることになっております。

こうして無事本番を迎えられるのも、
郡山の皆様からたくさんの応援を頂いたおかげです。

「大切なあなたに心からのありがとうをこめて」

是非このコンサートを通して、
大切な方とありがとうを伝え合ってくださいよう、
私達も感謝と真心を込めて皆様と過ごしたいと思ひます。

さて、そんな特別な想いで過ごす本日は、
第6話の最終章となる、鬼澤慎人氏の
スターリマンに宛てた感謝の風船レターをお送り致します。

皆様のお一人お一人にとってのスターリマンに！
あなたのかげがえのない大切な人に、
ありがとうを思ひて頂きながら、
最後までご覧いただけましたら、嬉しいです。

☆第6話 日本企業の経営品質向上に貢献する☆

NPO法人 茨城県経営品質協議会

NPO法人 日本再生プログラム推進フォーラム

理事 鬼澤 慎人 氏

第2章 ～鬼澤慎人氏のスターリィマンに宛てた感謝の風船レター～

大学4年の夏の就職活動の最中に糸瀬さんに出会い、

糸瀬さんに憧れて、まったく行く気もしていなかった都市銀行を選び、

第一勧業銀行に入行しました。

卒業前に糸瀬さんが銀行を辞められたことを知った時のことは

今でも鮮明に覚えています。

電話をかけた公衆電話の前で、かなり長い時間、呆然としていました。

その糸瀬さんから久しぶりに電話をもらい、

糸瀬さんのいるソロモン・ブラザーズに誘われた時には正直うれしかったです。

糸瀬さんはすぐにニューヨーク本社での勤務となり、

僕も入社後の夏、その年に入社した全社員を集めての約6ヶ月間の研修で

ニューヨークへ行くことになりましたが、毎週末に自宅に呼ばれては、

夕食をご馳走になりながら、

「中途入社だけど国際金融の経験も実力もないんだから、

もっと真剣に勉強しろ」といつも叱られました。

ずっと糸瀬さんのようになりたいと背中を追いかけていたけれど
近づくどころかどンドンと引き離されていました。

そう言えば、一度も面と向かってほめられたことはなかったですね。

いつも厳しく鍛えられました。

今の自分があるのは、糸瀬さんのおかげであると思っています。

叱られた思い出は山のようにありますが、

新婚旅行に行く前日の夜に電話で叱られたこと、今でも鮮明に覚えています。

一度だけ、「あいつには期待している」と陰で言ってくれた(ほめてくれた?)

ことをある先輩から聞いて、それがどれだけ頑張る力になったことか……

そんな糸瀬さんが亡くなったのは2001年、47歳のときでした。

実は5年前、僕がもうすぐ47歳になろうとしていた時に

半分冗談、半分本気で友人たちに、

「僕は憧れ尊敬している先輩から2回誘われて、人生が大きく変わった。

2度あることは3度ある。もしかすると来年もう一度誘われるかもしれない。

もし僕に何かあったら、それは先輩が『こっちに來い』と僕を誘ったからだ

と思ってほしい。」と話をしていました。

でも結局その誘いはなかったです。

「今のお前は期待していたほど成長していないから誘わないんだ」

糸瀬さんならそう言いそうです。

それとも、糸瀬さんが余命半年と宣言をされながらも、

日本の経済・金融問題について、命を削りながらも

執筆をしたり、テレビに出演して訴えたりして、この国の未来を

何とかしようとやり残したことを、「少しでもお前もやれ！」

ということなのでしょうか。

僕はそう思っています。

でもどうも問題は解決するどころか、ますます悪くなっていて

「何やってんだ」と日々怒られている気がしています。

人生は一度しかない

人は必ず死ぬ

人はいつ死ぬかわからない

糸瀬さんがそうしたように、僕も命の使い方を本気で考えるようになりました。

成果は出るか出ないかわかりませんが、自分にできること、

自分がやらなければならないことを考え行動しています。

今度あの世でお会いした時には、「まあ、お前も少しは成長したな」と

言ってもらえることを楽しみに。

僕のスターリマン、糸瀬さんに心からの感謝を込めて。

☆第7話 埼玉から日本をよい国にする☆

埼玉県知事 上田 清司 氏

～第1章 上田清司氏との出会い～

3月19日(水)配信予定です!

皆様、鬼澤慎人氏のスターリマンへの
感謝の風船レターはいかがだったでしょうか?

糸瀬さんの遺志を全身全霊で受け止めて、
今を生きる鬼澤さんの想いが、私の魂を強く打ちました。

きっと誰もが、誰かの想いを、夢を、志を継いで、
また後に続く人たちのために生きていくのでしょうかね。

鬼澤さん、心に響く風船レターを、
本当にどうもありがとうございます!

さて、次回から、第7話になります。
次にご紹介させて頂くのは、
埼玉県知事の上田清司氏です。

配信は、3月19日(水)です。
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

☆後記☆

鬼澤さんから風船レターの原稿を送って頂いて、
拝見した時に、私は、私にとってのスターリマンの一人、
大切な大切な母を思いました。

糸瀬さんと同じく、お星様になった母親ですが、
母親の看病の日々から
生きるとは、命とは、母親とは、親子とは、愛情とは、
かけがえのないスターリマンの心を教えてくれた母。

あの辛くて苦しい日々があったから、
私は、この25年間、スターリマンのお話の創作を
続けることが出来ているんだよ。

そして、これからもずっと…

私がお星さまになって、
お母さんのそばに行くその日まで。

3月9日、ありがとうの日に贈る
「いつも君のそばにいるよ」の朗読音楽コンサート。
お母さん!お空の上から見守っていてね!

2日後の3月11日には、
自然の猛威と悲しみに日本中に包まれた
東日本大震災から、3年になります。

2011年3月11日 14時46分。
忘れません。忘れることなんてできません。

私たちは、東北の未来を担う子ども達が
大切な夢をもって、幸せに輝いていけるよう、
これからも活動し続けたいと思います。

また、出会っていない一人でも多くのみんなに、
スターリマンの風船が届きますように…
そして、鎮魂の祈りをこめて…

はせがわ芳見